

営農ウィークリーNEWS

J A 京都中央 令和7年 10月 14日

No.777

作成者 上田 由里子

⚡ 静電噴口の効果を確認



静電噴口（みのる産業株）は、農薬散布時等に利用するもので、静電噴口を使用することで、帯電した薬液が放出され、作物への薬液付着率が向上し、散布量が3割ほど削減できるとされています。

今回、京都市にある京おくら圃場で、静電噴口による薬剤散布試験を行い、薬液付着量の確認を行いました。

各所に灌水試験紙を、通路側や葉裏等に設置し、静電噴口区・慣行区ごとに付着量を確認します。

結果は下記写真のとおりです。

同量の散布を行った慣行区より、静電噴口区の方が付着量が多いことがわかります。

静電噴口の散布効果が確認できたことで、散布効果が高いことが推測されます。

静電噴口についてのお問い合わせは、営農販売課および西南部経済センターまでお寄せください。

静電
噴口



通常
ノズル口



—TAC information—



水稻刈取り前の

『ごま葉枯れ病』にご注意下さい



土壌中のミネラル分が少ない土壌（砂壤土など）で水稻を作付けすると、「ごま葉枯れ病」が発生することがあります。「ごま葉枯れ病」は、穂ばらみ期に発生しやすい病気で、チッ素の他微量元素である鉄やケイ素等が不足した、いわゆる「秋落ち」しやすい圃場では、発病する確率が高くなります。

発病すると薬剤での防除が難しいため、予防には定植前の土づくり資材（とれ太郎等）の施用や、種子消毒が大切です。適切な土づくりを行うようにしましょう。

また、今年は「紋枯病」も多く発生しています。定植前の苗箱剤散布や、生育期の薬剤散布を行うようにしましょう。詳しくは、「2026 年度肥料・農薬予約書」に掲載予定です。

JA 京都中央管内(指定地区)

祝 ～京はたけ菜～

「京のブランド産地」に
指定されました！！



JA 京都中央管内の、京都市伏見区淀地域・羽束師地域、京都市西京区大原野地域、大山崎町が、**新たなブランド品目**として登録された『京はたけ菜』のブランド産地指定を受けました。

『京はたけ菜』は、京の伝統野菜の一つで、京都では2月の初午の日に辛し和えにして食される風習があります。また、京都市伏見区にある伏見稲荷大社では【初午大祭】が催され、管内で栽培された『京はたけ菜』を毎年奉納し、過去同誌でも広報してきました。

京のブランド品目に、京みず菜・壬生菜に次ぐ葉菜類が認定されるのは30数年ぶりです。

当JAでは、「京おくら」に続く秋冬の重要品目として、さらに生産拡大を行っていきます。